

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Trends in lifestyle factors affecting blood pressure in hypertensive and normotensive Finns during 1982-2002. 正常および高血圧のフィンランド人の血圧に影響する生活習慣の 1982 から 2002 年にかけての変遷	
執筆者 Kastarinen M, Laatikainen T, Salomaa V, Jousilahti P, Antikainen R, Tuomilehto J, Nissinen A, Vartiainen E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) J Hypertens. 2007 Feb;25(2):299-305.	
キーワード 飲酒、BMI、地域住民を対象とした断面調査、高血圧、身体活動、塩分摂取	
要 旨 目的： 正常及び高血圧のフィンランド人の、血圧に影響を与える生活習慣の 1982 年から 2002 年にかけての変遷を検討する。 研究デザイン： 1982 年、1987 年、1992 年、1997 年、2002 年に、東フィンランドの North Karelia 州、Kuopio 州と南西フィンランドの Turku-Loimaa 地区で、それぞれの地域住民を対象として、別々に実施された 5 つの断面調査を検討した。 対象： 25 歳から 64 歳の男女を住民登録からランダムに抽出した。対象者 (28,235 人) は血圧のレベルと治療状況によって、4 つの群に分類した。すなわち、正常血圧群、自覚していないが高血圧の群、自覚しているが治療を受けていない高血圧の群、高血圧治療中の群である。 測定項目と方法： 飲酒状況、BMI、ナトリウムとカリウムの 24 時間排泄量 (5849 人分のサンプルで測定)、週 3 回以上余暇時間に体を動かす (LTPA) 人の割合について検討した。 結果： 未治療高血圧群の女性以外は、すべての群で有意に BMI の平均値が増加していた。すべての群の男性と高血圧群の女性で飲酒量が増加していた ($P < 0.001$)。ナトリウムの 24 時間排泄量は、すべての群で有意に減少していた。LTPA の割合は、すべての群で有意に増加、または傾向として増加していた ($P < 0.001$)。 結論： フィンランド人の高血圧人口を減らすためには、今回の研究で全体的に見られた BMI と飲酒についての好ましくない傾向を改善しなければならない。高血圧の人の健康習慣について注意深く観察し、現在よりさらにシステムティックで効率のよい方法で修正していく必要がある。	